

クボタのアスベスト問 題

グループ2 奥村 木村
小林 松下

目次

- ◆ 会社説明
- ◆ クボタの問題
- ◆ アスベストについて
 - ◆ アスベストによって発症される病気について
- ◆ なぜ起こったか
 - ◆ クボタの対応
- ◆ 裁判の状況
- ◆ まとめ

会社概要

- ◆ 社名 株式会社クボタ
- ◆ 代表者
 - ◆ 代表取締役社長 益本 康男
 - ◆ 代表取締役専務執行委員 奈良 広和
富田 哲司
- ◆ 創業 1890年
- ◆ 資本金 840億円(2010年3月31日現在)

会社概要2

- ◆ 売上高 9306億円(2010年3月期・連結)
5404億円(2010年3月期・単独)
- ◆ 従業員数 24778名(2010年3月期・連結)
9379名(2010年3月期・単独)
- ◆ 本社所在地 〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1-2-4
7

クボタの事業内容

- ◆ 内燃機器関連部門
- ◆ 環境エンジニアリング部門
- ◆ 産業インフラ部門
- ◆ 生活環境関連部門

クボタのアスベスト問題

- ◆ 2005年6月29日、クボタは兵庫県尼崎市の旧神崎工場と神奈川県小田原市の小田原工場で石綿(アスベスト)を材料とするパイプや住宅建材の製造工場で働いていた社員や退職者、請負会社従業員、地域住民の間で、**がんの一種「中皮腫」**など石綿が原因とみられる疾病の患者が多数発生し、1978～2004年に計79人が死亡、現在療養中の退職者も18人いる、と発表した。
(クボタショック)

<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>

アスベストについて

- ◆ 石綿(アスベスト)・・・自然に存在する繊維状ケイ酸塩鉱物。繊維が極めて細く軽い。 青石綿、茶石綿、白石綿、が使われている。
 - ◆ 青石綿(クロシドライト)・・・ 非常に耐酸性が強く強度が大きい。もっとも危険性が高い。1995年に全面禁止される。
- ◆ 茶石綿(アモサイト)・・・柔軟性があって強靱。スプリングファイバーとも呼ばれる。耐熱性はもっとも優れている。2番目に危険性が高い。1995年に全面禁止。

アスベストについて2

◆ 石綿 (アスベスト)

- ◆ 白石綿 (クリソタイル)・・・やわらかく加工しやすい。断熱性と絶縁性、耐磨耗性に優れる。使用量が多かった。2004年に一部除いて禁止

今回、旧神崎工場と小田原工場で使われていたのは青石綿と白石綿だった。だから、これだけの死者が出たと考えられる。

石綿が原因で発症する病気

◆石綿(アスベスト)肺

◆肺がん

◆悪性中皮腫

悪性中皮腫について

- ◆ 悪性中皮腫は胸腔または腹腔の内側を覆う膜に悪性(がん)細胞が形成される病気。
- ◆ アスベストの吸引期間は悪性中皮腫の発生リスクに影響する。
- ◆ 悪性中皮腫を疑う徴候としては息切れや胸郭より下の疼痛がある。

なぜ問題がおこったか

Q1、なぜ2005年に問題が発覚したか？

Q2、なぜアスベストを製品に使っていたか？

Q3、どこに責任があるのか？

Q4、クボタの対応はどのようなものだったのか？

なぜ2005年に問題が発覚したか？

- ◆ 一般的に石綿(アスベスト)による健康被害は、石綿を吸ってから長い年月をかけて出てくる。今回の問題で発症した中皮腫は、潜伏期間が長く、平均で35年後くらいに発症するケースが多い。
- ◆ 国が2004年10月に法律で石綿(アスベスト)の製造や禁止が原則禁止にされたのを受け、それから石綿(アスベスト)を使用していた工場について調査を始めたから。

アスベストの規制状況

◆ 規制状況

- ◆ 1975年青石綿・茶石綿吹き付け(5%以上)禁止
- ◆ 1995年青石綿・茶石綿の輸入・製造・使用禁止
- ◆ 1995年白石綿吹き付け(1%以上)禁止
- ◆ 2004年全石綿の原則使用禁止
(代替品のない製品を除く)
- ◆ 2006年全面禁止

1995年に実際に工場で使っていた青石綿が禁止にされたのだから、もっと早く調査してもよかった。

なぜアスベストを製品に使用したか？

- ◆ 1951年にそれまで石綿の代わりに使われていた鉄の補助金が撤廃されたため、石綿の需要が増え、石綿が使われるようになった。
- ◆ 耐久性・耐熱性・耐薬品性・電気絶縁性に優れ、比較的安いためアスベストが使われた。

では、現在アスベストの代わりに使われている製品はどのようなものなのだろうか？

アスベストの代替品

- ◆ グラスウール

- ◆ ロックウール

一つひとつの性能においてアスベストより高性能なものはあるが、総合的にみるとアスベストのほうがいい製品である。

どこに責任があるのか？

◆ クボタ

- ◆ 法律違反はなかったが、海外では1960年代にアスベストの危険性について議論されていた。利益を追求するあまり、対策を怠っていたのかもしれない。

◆ 国

- ◆ アスベストを規制するのが遅かった。特に全石綿の使用禁止については一番早く禁止を行った国と比べて約20年も遅い。

クボタ・国両方に落ち度があった。

クボタの対応

- ◆ 旧神崎工場の関係者や周辺住民の被害者に約300万の見舞金・弔慰金を払うことを決めた。
- ◆ 兵庫医科大学と大阪府立成人病センターが行う石綿関連疾病の治療・研究に対し、総額17億円の支援を決めた。

ただ、この補償では納得がいかないとして裁判になっているケースがある。

補償の内容

- ◆ クボタは在職中に死亡した従業員144名に約3200万円の補償をすることを決めた。
 - ◆ また、周辺地域で中皮腫を発症した患者191名に2500万円～4600万円の補償をすることで患者側と合意した。(平均3650万円)
- しかし、周辺住民の一部は補償の認定をめぐり裁判を起こしている。

アスベスト認定の基準

- ◆ 法律による認定
- ◆ 職業歴
- ◆ 距離と期間

この三つの条件をクリアしないと救済金がもらえない。

補償金にどれだけかかったか？

- ◆ 従業員に対して
 $144人 \times 3200万円 = 460800万円$
- ◆ 周辺住民に対して
 $191人 \times 3650万円 = 697150万円$
- ◆ 合計
 $460800万円 + 697150万円$
 $= 1157950万円$

つまり、補償金に約115億円支払った。

補足

- ◆ クボタは2005年に問題を発表してから、5年連続で純利益が下がっている。これは補償の資金や発表による社会的な制裁を受けたのかも知れない。
- ◆ ただ、株価は発表してから上がった。これは発表をしてからの対応が評価されたからである。

まとめ

- ◆ 全体の対応としてクボタはいい対応をしたと思うが、アスベストの健康被害についてもっと理解し、対策を考えておくべきだったと思う。
- ◆ 国ももっと早くアスベストの危険性を理解し法律や規制を作っとくべきだった。

参照

- ◆ <http://www.kubota.co.jp/>
- ◆ <http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/07/tp0729-1.html>
- ◆ <http://zara1.seesaa.net/article/16815796.html>